

科目名 現代の都市問題
Title Contemporary Urban Problems
科目区分 専門導入B

教授 佐藤 英人 (サトウ ヒデト)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

都市はさまざまな機能を包含する多様性に富んだ地域である。また同時に、時代の変遷によってその形態を変化させて脈動し続ける変化に富む地域でもある。多様で、かつ、変化に富む都市を経営するためには、一般企業のように利潤追求のみでは成立しない。限られた人的資源や財源を駆使し、公共の福祉の増進に寄与することが求められよう。そこで本講義では、都市を巡るステークホルダーを理解し、それぞれの役割と守備範囲を把握した上で、現代の都市問題に対峙するための政策のあり方や方向性を地理学の視点から論じてみたい。

達成目標

現代の都市問題を理解し、自らの意見や考えを持てることが、本講義の目標である。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス 講義概要、スケジュール、評価方法など
- 第2回 都市問題とは何か？ 既存研究の整理と研究視角、分析方法
- 第3回 都心一極集中と過密問題 (1) 交通混雑や地価高騰のメカニズム
- 第4回 都心一極集中と過密問題 (2) 職住分離の都市構造と通勤問題の激化
- 第5回 都市問題の是正に向けた再開発のあり方 (1) 都市三法 (都市計画法、都市再開発法、建築基準法)
- 第6回 都市問題の是正に向けた再開発のあり方 (2) 再開発の事例と問題点
- 第7回 業務機能の再配置 (1) さいたま新都心の例
- 第8回 業務機能の再配置 (2) 幕張新都心の例
- 第9回 業務機能の再配置 (3) 横浜みなとみらい21地区の例
- 第10回 情報技術の発達とオフィス (1) テレワークの導入と都市
- 第11回 情報技術の発達とオフィス (2) 在宅勤務と女性就業者の関係
- 第12回 都心再生とジェントリフィケーション 日米における都心再生の動き
- 第13回 人口減少に伴う住宅地の選別化 (1) 少子高齢化、人口減少社会への対峙
- 第14回 人口減少に伴う住宅地の選別化 (2) 淘汰・選別される住宅地のゆくえ
- 第15回 まとめ 本講義のまとめと復習

教科書・参考文献

教科書 特に定めないが、毎回授業の冒頭 (5~10分程度) に参考となる文献やフリーウェア、サイト等を紹介する。

参考書 佐藤英人著『東京大都市圏郊外の変化とオフィス立地』古今書院、2016
富田和暁・藤井正編著『新版図説大都市圏』古今書院、2010

授業外での学習

参考書や授業中に紹介した文献、各自で興味のある書籍・マスメディアなどを通して、現代都市が抱える問題に対する認識を深めること。

評価方法

期末試験 (70%) と小テスト・小レポート (30%) の結果等により評価する。

履修上の注意

本講義ではパワーポイントを使用する。当日使用する資料は、ウェブサイトからダウンロードできるので、適宜利用して欲しい。なお、ダウンロードの方法などの詳細は、初回のガイダンスで説明する。最近、授業を妨害する悪質な私語、徘徊、前扉から堂々と入室する遅刻等、本学の学生にあるまじき無礼者が激増している。このような行為を授業中に発見した場合、直ちに履修停止とし、その旨を大学当局ならびに保護者に通報する。

科目名 都市政策論
Title Urban Policies
科目区分 専門導入B

担当教員
非常勤講師 藤岡 麻理子 (フジオカ マリコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

都市は人間活動の舞台であり、そこには多分野にまたがり、かつ相互に関係するさまざまな課題が存在する。都市政策は都市が抱える多様な課題に対応しながら、将来都市像を実現するための方針、手段等を提示してきたが、時代の中で都市課題は多様化・複雑化し、都市政策が扱う領域も広がりを見せている。都市があらゆる人にとってより豊かに暮らせる場であるために、どのような視点や政策が必要だろうか。本講義では、都市政策が国内外でどのように展開してきたかを学ぶとともに、都市が抱える課題と描かれる将来都市像、およびそれに対応するための政策を多様な視点から学び、都市に対する総合的な視点を養う。

達成目標

- ・ 現代の都市が抱える課題を理解する
- ・ 都市づくりが分野横断的であることを理解する
- ・ 都市課題に対し、どのような政策が立案、実施されてきたかについて基礎的知識を得る。
- ・ 都市の実態とあるべき姿について自分なりの考えをもつ。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション：都市課題と都市政策
- 第2回 都市政策の展開 (1) 世界の状況
- 第3回 都市政策の展開 (2) 日本の状況
- 第4回 都市政策の視点 (1) 土地利用と都市構造
- 第5回 都市政策の視点 (2) 住宅と住宅地
- 第6回 都市政策の視点 (3) 交通
- 第7回 都市政策の視点 (4) 公園・みどり・水
- 第8回 都市政策の視点 (5) 景観
- 第9回 都市政策の視点 (6) 文化
- 第10回 都市政策の視点 (7) 観光
- 第11回 都市政策の視点 (8) 医療・福祉
- 第12回 都市政策の視点 (9) 防災
- 第13回 都市政策の視点 (10) 地球環境問題への対応
- 第14回 都市政策の視点 (11) 都市づくりの担い手
- 第15回 これからの都市政策

教科書・参考文献

教科書 教科書は使用しない。資料を配布する。

参考書 講義の中で適宜紹介する。

授業外での学習

授業後は配布資料やノートを読み返し、復習すること。
講義中に紹介する文献のほか、関連書籍を自分で探し、知識と思考を深めること。

評価方法

レポート (70%) と平常点 (毎回のリアクションペーパー、30%) で評価する。

履修上の注意

ひとりの都市生活者として、日頃から都市の姿、都市における人間の営み等に意識的になること。

科目名 現代の農村問題
Title Contemporary Agricultural and Rural Problems
科目区分 専門導入B

非常勤講師 倪 鏡 (ニイ ジン) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

農山漁村文化協会の日中農業交流事業に携わった勤務実績とJC総研での研究経験を活かし、日本国内外の現場における取り組みを多く取り入れ、農業・農村の実態を伝える。グローバル化の急速な進行を背景に農村地域は経済・産業面において存続が困難になってきた。しかし、農山村地域には農地・山林などの自然環境をはじめ、文化・歴史、生産物など多様かつ豊富な地域資源が存在する。こうした諸資源を地域住民の主体的参加、都市住民や消費者との協同によって有効活用することは、農村の再生につながる。本講義では、農村の厳しい経済的状況を客観的に捉えると同時に、生活・資源・コミュニティまで農村地域の再生に向けての現場の取組を紹介し、農村の将来を考える機会を提供したい。

達成目標

- 1) 日本の農村問題の現実を幅広く理解する。
- 2) 農村地域の活性化に関する国の政策、自治体および地域住民の取組を理解する。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション 講義の課題と進め方
- 第2回 農村地域の現状と課題
- 第3回 戦後における農業・農村問題の変遷
- 第4回 都市と農村の対流・共生 1)
- 第5回 都市と農村の対流・共生 2)
- 第6回 農村地域の資源管理
- 第7回 日本の農業構造問題 1)
- 第8回 日本の農業構造問題 2)
- 第9回 日本の農業構造問題 3)
- 第10回 中間テスト(もしくはレポート)
- 第11回 協同組合と農村地域の活性化
- 第12回 田園回帰と新規就農
- 第13回 農業の6次産業化と農村地域の活性化
- 第14回 諸外国の農村政策
- 第15回 講義のまとめと意見交換

教科書・参考文献

教科書 なし。毎回の講義で資料を配布する。

参考書 必要に応じて講義中に指示する。

授業外での学習

講義では農業・農村に関するテーマを幅広く取り上げるため、日常的に新聞・テレビ・図書などの関連情報に注意するとともに、講義内容を必ず復習することが望ましい。

評価方法

期末試験70%、中間レポート30%

履修上の注意

私語、遅刻など、講義の妨げとなる行為は成績評価の減点となる。

科目名 農業経済学
Title Agricultural Economics
科目区分 専門導入B

担当教員
准教授 宮田 剛志 (ミヤタ ツヨシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

人類はまだ、その歴史とともに古く最も根本的な問題である食料問題を解決できておりません。現在ばかりではなく、将来それを解決する確かな方法も模索され続けているのが実態です。なぜでしょうか？対照的に、国民所得水準の高い国では、国内農業保護政策が広く行われることで農産物過剰の問題を引き起こしております。日本でも、もう50年近くも水田で米を作らない減反政策が続いてきました。なぜでしょうか？さらに、国民所得水準の高い国におけるこのような国内農業保護政策が農産物貿易の「ゆがみ(distortion)」をもたらし続けてきました。なぜでしょうか？本講義では、主としてこれら3点の理解を深めていくことを目的と考えています。

達成目標

「農業経済学」の講義を通じて、世界、日本の食料・農業・農村がおかれている現状についての“見る目”をやしなってもらえる過程で、学生自身が社会の様々な問題に対してより多くの興味・関心を持ってもらえればと考えています。その上で、社会の複雑な問題に対して、学生自らが問題を発見し、その問題に対して自ら解決策を導けるような思考のツールとなる様々な技法や技能を身につけてもらえることを期待しております。

スケジュール

- 第1回 農業経済学の講義の課題-ガイダンス的内容-
- 第2回 経済発展と農業
- 第3回 食料の需要と供給
- 第4回 農業生産と土地
- 第5回 農業の経営組織
- 第6回 農産物の市場組織
- 第7回 農産物貿易と農業保護政策
- 第8回 食生活の成熟とフード・システム
- 第9回 農業の近代化
- 第10回 資源・環境と農業
- 第11回 日本の農業と食料
- 第12回 「市町村消滅論」と「田園回帰」.1-「農村たたみ論」の背景と本質-
- 第13回 「市町村消滅論」と「田園回帰」.2-農山村への移住の歴史-
- 第14回 「市町村消滅論」と「田園回帰」.3-農山村再生と「田園回帰」-
- 第15回 農業経済学のまとめ-講義内容の整理-

教科書・参考文献

教科書 荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学 第5版』岩波書店、2020年。

参考書 小田切徳美他『田園回帰がひらく未来-農山村再生の最前線-』岩波ブックレット、2016年他。

授業外での学習

関連した論文や図書に関して事前に理解を深めておくこと。

評価方法

定期試験を65%、講義の区切りで課す小テスト・レポート等を35%として評価。出席率が大学の規定に達しない者は評価の対象としない。

履修上の注意

目的意識をしっかりと持って受講することが第一です。

科目名 国際経済学
Title International Economics
科目区分 専門導入B

担当教員
非常勤講師 宮田 春夫 (ミヤタ ハルオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

この科目の枠は、本来は、黒川基裕教授の国際経済学ですが、今年度は、宮田(元新潟大学)が国際開発論の切り口から国際経済を論じます。まず、東南アジアの国家について簡単におさらいをした上で、開発についての考え方の歴史を論じます。その内容は、(1)開発=経済成長=工業開発という初期の素朴な考え方、(2)農業、農村についての気づき、(3)新古典派の経済・貿易の自由、比較優位等、また、先進国の景気と援助の条件付け、(4)貧しい人たちのbasic human needsの充足に重点を置いた考え方です。最後に、日本のODA政策に大きな影響を及ぼした、1人1人がその人なりの理由により価値があると考えるような生活を送る様々な力が基本になるとするアマルティア・センの開発論を概観します。
なお、開発論で主流の新古典派は、国際経済学の主流でもあります。また、センも市場について論じています。

達成目標

1. 開発論の背景にある国際経済・国際関係について理解する。
2. 主要な開発論について、その内容、背景、政策影響について理解する。
3. 1人1人がその人なりの理由により価値があると考えるような生活を送る様々な力(capabilities)が基本になるとするセンの開発論を理解する。

スケジュール

- 第1回 全体のガイダンス。続いて、I. 東南アジアの国家(1)
- 第2回 I. 東南アジアの国家(2)
- 第3回 II. 開発についての考え方の歴史 1. 初期の素朴な考え方: 開発=経済成長=工業開発
- 第4回 II. 開発についての考え方の歴史 2. 農業、農村についての気づき
- 第5回 II. 開発についての考え方の歴史 3. 新古典派の国際貿易と開発
- 第6回 II. 開発についての考え方の歴史 4. 貧しい人たちのbasic human needsの充足
- 第7回 開発についての考え方の歴史の総括
- 第8回 III. センの開発論 1. 「自由」(freedom) 2. 「開発」の目的と手段の区別
- 第9回 III. センの開発論 3. 正義の観点からの、結果、プロセス、ルールの3者の重要性
- 第10回 III. センの開発論 4. 貧困とは何か
- 第11回 III. センの開発論 5. 市場・交換の重要性
- 第12回 III. センの開発論 6. 民主主義
- 第13回 III. センの開発論 7. 社会の共有の価値観・規範の形成と個人の行動
- 第14回 III. センの開発論 8. センの開発論が形成された背景
- 第15回 国際経済と開発論の総括: 国際貿易と開発

教科書・参考文献

教科書 教科書は使用せず、適宜資料を配布します。

参考書 Third World Politics; Postwar Evolution of Development Thinking; Development as Freedom他

授業外での学習

気軽に相談して下さい。環境と開発を巡る南北関係(ODA政策、南北交渉等を含む先進国と途上国の関係、開発途上国とは何か等)、アマルティア・センの開発論・正義論、平和学(消極的平和、積極的平和)等に対応できる可能性があります。

評価方法

3つの到達目標にどの程度届いたかを、試験に代えて、この授業の論点を自分なりにまとめた期末ペーパー(ワード標準様式で5頁程度)により100%評価します。

履修上の注意

「出席点」はありません。しかし、既存の書籍、インターネット等で行われていない独自の議論を行うので、出席した上で集中して聴講することなく単位を得るのは難しいと考えます。
教員ウェブサイト:<http://kokusaikaihatsuken.net/matters/>

科目名 国際関係論
Title International Relations
科目区分 専門導入B

教授 吉武 信彦 (ヨシタケ ノブヒコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

相互依存関係の深まった現代では、国内社会と国際社会を完全に分けて考えることは困難になっている。つまり、国内社会は国際関係から常に大きな影響を受け、また逆に国内社会が国際関係に大きな影響を与えることもある。それゆえ、国内社会の諸問題を考えるにあたっては、国際的な視野から物事を考えてみることは極めて重要であろう。こうした問題意識に立ち、本講義では国際関係の基礎理論を紹介し、それにより激動する国際関係を見る「眼」を養うことを目的とする。特に国際関係の基本的主体である国民国家に注目し、その役割を検討する。また、そうした役割が変容している現実も具体的に現代の諸問題を通して考えたい。その一環で、地方自治体の果たす役割にも言及する。

達成目標

本講義を通して、国際関係について理解を深め、自分自身で情報収集、分析、評価ができるようになることを目標とする。そのためにも、講義に単に出席するだけでなく、自分からも参考文献表の文献を1冊でも多く読み、また日々のニュースなどにも触れ、国際関係に関心をもってほしい。レポートも、分析力、表現力を磨く手段として、前向きに取り組んでほしい。

スケジュール

- 第1回 講義の概要説明 (講義目的、目標、スケジュール、成績評価等を説明する)
- 第2回 国際関係研究の入門 (参考文献を紹介する)
- 第3回 国際関係論とは何か (アクター、争点から国際関係について考える)
- 第4回 研究史(1) 国際関係論の誕生 (第二次世界大戦までの学問の展開について考える)
- 第5回 研究史(2) 国際関係論の発展 (第二次世界大戦後の学問の展開について考える)
- 第6回 中間レポート(中間レポートの発表とレポートの書き方について説明する)
- 第7回 地域研究の重要性 (地域研究の始まりと展開について考える)
- 第8回 国民国家の歴史的発展 (国民国家が歴史的にいかにも生まれ、発展してきたかについて考える)
- 第9回 国民国家をめぐる諸問題 (国民国家が直面する現代の問題について考える)
- 第10回 国際関係とNGO (新しいアクターであるNGOの特徴、役割などについて考える)
- 第11回 国際関係と地方自治体(1) 国際交流・協力 (地方自治体の国際交流・協力の活動について考える)
- 第12回 国際関係と地方自治体(2) 内なる国際化 (地方自治体の外国人住民に対する活動について考える。その1)
- 第13回 国際関係と地方自治体(3) 内なる国際化 (地方自治体の外国人住民に対する活動について考える。その2)
- 第14回 国際関係におけるグローバリズム・リージョナリズム (グローバリズム、リージョナリズムの現状について考える)
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 第2回目の講義で、詳細な参考文献表を配布する。

授業外での学習

配布する参考文献表の本を1冊でも多く読むことが望ましい。中間レポートの課題書をしっかり読み込み、内容について理解したうえで、レポートを作成してほしい。期末レポートでも本を多く読んでもらう予定。

評価方法

対面講義ではないため、レポートで成績評価をすることになる。中間レポート1回(30%)と期末レポート(70%)で総合的に評価する。中間レポートでは課題書を読んでもらう予定。

履修上の注意

本年度に関しては、教員の都合により遠隔授業(リアルタイム)形式での実施となる。教員が教室外から教室に向け授業を実施する。対面講義ではないため、出席はとらない。しかし、クラスター対策上、教室で履修する際は必ず出席のカウンタ一に学生証をかざして下さい。

科目名 地域経済論
Title Regional Economy
科目区分 専門導入B

担当教員
准教授 米本 清 (ヨネモト キヨシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

わが国では少子高齢化の中、今なお大都市への人口集中や産業空洞化などが続き、多くの地域は不安を抱えている。こうした状況は、経済的要因によってもたらされている面が大きい。しかし、地域経済の現状を把握し、これを理論的・実証的に特徴付けようとするときには、一国の経済に関するものとはかなり異なる手法が必要とされる。例えば、空間的側面を考慮し、相互の関係を把握し、また各地域の独自性や特殊性、歴史的経緯などを考慮しなければならない。

本授業では、こうした手法を学ぶため、地域経済学・地域経済論の基礎理論を解説し、実際の事例や動向などに触れる。さらに、都市・環境・国際経済学といった周辺の各経済分野との関連性を示すとともに、防災や災害復興などに関わるトピックを紹介し、応用力を養う。

達成目標

- ・ 地域経済の基礎理論を学習する。
- ・ 地域経済の問題やその解決など、国内外の事例に触れて理解を深める。
- ・ 地域をシステムとして捉え、相互の関係を重視する視点を学ぶ。
- ・ とくに、北関東地域を中心とした身近な地域の実態を地域経済学・地域経済論の視点から考える。

スケジュール

第1回	導入	地域経済を特徴付ける理論と一国経済の理論との違い
第2回	地域間格差と人口移動 (1)	人々はなぜ移動するか
第3回	地域間格差と人口移動 (2)	人口移動の現状と今後
第4回	地域間格差と人口移動 (3)	中規模都市の今後
第5回	地域経済の基本構造 (1)	地域マクロ経済学
第6回	地域経済の基本構造 (2)	地域経済の相互関係
第7回	地域経済の成長理論 (1)	需要主導型のモデル
第8回	地域経済の成長理論 (2)	供給主導型のモデル
第9回	地域間交易と空間経済学	空間経済学の基礎
第10回	地域の交通 (1)	交通サービスの需給と交通政策
第11回	地域の交通 (2)	地方における交通の現状と今後
第12回	地方公共財と地域	
第13回	地域政策と地域	
第14回	防災・災害復興と地域	
第15回	まとめ	

教科書・参考文献

教科書 黒田達朗・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学(新版)』有斐閣ブックス

参考書 山田浩之・徳岡一幸編『地域経済学入門(新版)』有斐閣コンパクト

授業外での学習

毎回、教科書の該当する章を予習するとともに、「練習問題」に目を通し、自ら考えてから出席すること。

評価方法

定期試験(60%)、授業中の小テスト(20%)、小レポート(20%)により総合的に評価する。

履修上の注意

経済学の基本的な講義を履修済みであることが望ましい。
授業には積極的に参加し、レポートでは自らの頭で考えたアイデアを示すこと。
小テスト・小レポートは、周囲の人と協力して解答したり、ネット上などの資料を収集し分析する作業を含む場合がある。

科目名 経済政策論
Title Economic Policies
科目区分 専門導入B

担当教員
非常勤講師 中村 宗之 (ナカムラ ムネユキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

経済政策に関する理論や歴史を概観し、検討していきます。映像資料なども活用します。経済社会の方向性は政策により変えていくことができます。これまでどのような経済政策が採用され、どのような結果が生み出されたのか、今後はどういう展望があるのか、考えていきたいと思えます。

達成目標

種々の経済政策を理解し、論じることができる。

スケジュール

- 第1回 授業のガイダンス
- 第2回 資本主義の段階区分
- 第3回 経済政策の歴史的推移(1)
- 第4回 経済政策の歴史的推移(2)
- 第5回 景気循環と経済政策
- 第6回 財政政策(1)
- 第7回 財政政策(2)
- 第8回 金融政策(1)
- 第9回 金融政策(2)
- 第10回 ケインズ主義と新自由主義
- 第11回 福祉国家政策
- 第12回 リバタリアニズム
- 第13回 国家資本主義と計画経済
- 第14回 地方分権と経済政策
- 第15回 授業のまとめ

教科書・参考文献

教科書 なし

参考書 SGCIME編『第3版 現代経済の解説』, 御茶の水書房, 2017年. スティグリッツ『ミクロ経済学』, 『マクロ経済学』, 第4版, 東洋経済, 2013年, 2014年.

授業外での学習

授業の予習や復習をしっかりと行ってください。

評価方法

授業への取り組み姿勢(40%)、期末試験(60%)

履修上の注意

授業で用いる資料は教材システムにアップロードしますので、各自でプリントしてください。

科目名 地域政策論
Title Regional Policies
科目区分 専門導入B

担当教員
教授 佐藤 公俊 (サトウ キミトシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

戦後の日本は道路、上下水道などの生活に必要な社会基盤の整備が進んだ時代であった。このことは、多くの公共問題の解決が進展した幸せな時代であったということができる。しかしながら外交、安全保障、治安の確保など常に存在する課題や、地球環境問題、IT化に伴って発生した犯罪など新しいタイプの課題もありその解決に社会は常に資源を割かなくてはならない。従来の地域の問題解決の仕組みは「国の主導による問題解決の仕組み」というべきものであった。20世紀の課題は、全国的に最低限の暮らしができるような基盤整備が主であり、キャッチ・アップ型の国家であったので「国主導型」は効率的といえる側面があったが、21世紀型の仕組みは「地域主体の問題解決の仕組み」であることが求められる。本講義は、この「地域主体の問題解決の仕組み」について理論的な、あるいは事例を通じた実践的な理解を高めることを目的とする。

達成目標

地域政策は行政や政治家のみによってつくられるものではないことを理解し、市民として地域に対する関心を持ち、地域の問題解決に必要な知識を身につけることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 「ガイドランス」 人口減少社会、消滅可能性都市、過疎と限界集落
- 第2回 「地域社会を取り巻く状況」 事例研究①、地域社会の将来展望
- 第3回 「コミュニティ」 コミュニティ問題、マッキーバー、コミュニティとアソシエーション
- 第4回 「町内会の機能」 町内会・自治会、事例研究②
- 第5回 「政府体系」「補完性の原理」、国庫支出金と地方交付税交付金、地方便権
- 第6回 「公共財とフリーライダー」 公共財、協力、フリーライダー
- 第7回 「共同体と協力」 人々はなぜ協力するのか、事例研究③
- 第8回 「中間試験」 第1回から7回までの内容に関する試験
- 第9回 「ソーシャル・キャピタル」 倫理と道徳、信頼と協力
- 第10回 「自治体と住民の新しい関係」 住民参加、協働のまちづくり、ソーシャル・キャピタル
- 第11回 「買い物難民」 地域公共交通、官が民が
- 第12回 「商店街はなぜ衰退したか」 中心市街地、公共財、事例研究④
- 第13回 「空き家問題を考える」 市場原理、サプライサイドとデマンドサイド、地方住宅供給公社、事例研究⑤
- 第14回 「地方自治体の破綻可能性」 産業構造、リゾート開発、財政再生団体、事例研究⑥
- 第15回 「地域政策の目指すべき方向性について」 事例研究⑦

教科書・参考文献

教科書 指定しない。

参考書 講義中に指示する。

授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について情報収集し、予習をすること。授業後はノートや配布資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

中間試験 (30%)、期末試験 (70%) による。それに加えて、リアクションペーパーを重視する (+α)。

履修上の注意

特になし。

科目名 地方政治論
Title Local Politics
科目区分 専門導入B

担当教員
教授 増田 正 (マスダ タダシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

・本講義においては、地域政策学の体系的な修得のために、地方政治を取り巻く環境と中央・地方関係という法制度的な拘束を前提としながら、現代日本における地方政治について、各自治体の事例を交えながら解説する。講義内容は、我が国の地方政治・行政制度の現状、その歴史的展開と将来への展望等である。講義全体を通じて、「地方政治のあり方」を探求し地域社会における政治の役割について体系的な知識の獲得を目指すものとする。

達成目標

・地方自治制度への概括的な理解を基礎として、群馬県、高崎市などの具体的な事例紹介を通じて、地方政治における首長、地方議員、市民の役割に関して地域政策的な視点から理解できるようにする。

スケジュール

第1回	ガイダンス 講義のアウトライン及び履修上の注意
第2回	地方自治体を取り巻く環境 国際環境と地域環境
第3回	地方政治の統治モデル 政治的水平競争モデルと垂直的行政統制モデル
第4回	ローカル・マニフェスト 議員版マニフェストの一部解禁へ
第5回	地方議会への市民参加 議会傍聴から市民会議まで
第6回	地方議会の活性化 地方議会の機能
第7回	地方議会の実際(群馬県) 群馬県議会の委員会と会派
第8回	地方政治の実際(高崎市) 高崎市議会の委員会と会派
第9回	群馬の地方政治 小寺、大澤、山本県政
第10回	自治基本条例と議会基本条例 推進か、それとも不要なのか
第11回	政務調査費・政務活動費を考えると、なぜ不正がはびこるのか
第12回	地方分権時代の地方政府 基礎自治体から地方政府へ
第13回	現代日本の中央・地方関係
第14回	議員定数と議員報酬 なり手不足問題を考える
第15回	総括授業(講義のまとめ)

教科書・参考文献

教科書 藤井浩司・中村祐司編著『地方自治の基礎』一藝社(2017)

参考書 増田正・友岡邦之・片岡美喜・金光寛之『地域政策学事典』勁草書房(2011)

授業外での学習

シラバスに対応した講義項目に関する事前学習(予習)を行うとともに、講義後もプリント等で内容を復習しておくことが望まれる。

評価方法

学期末試験:70%、毎回のコメントシート:30%

履修上の注意

テキストを必ず毎回持参すること。

科目名 地域づくり論
Title Regional Development
科目区分 専門導入B

担当教員
准教授 高橋 美佐 (タカハシ ミサ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義では、地域社会が抱える基本的なテーマである地域再生やコミュニティ再生についてその現状を把握し、課題解決のための地域づくり活動のあり方を多面的な視点から考える。特に、「地域」をヒト（地域を構成する住民や組織）・モノ（地域にある商品や施設などの資源）・コト（地域の文化、福祉、環境など）が相互に連環して機能するシステムと捉え、その関係性をデザインすることにより「地域をつくる」という考え方を学ぶ。具体的な地域づくりの実践事例のなかから、地域づくり活動に必要なスキル・能力とは何かを探求し、地域リーダーの人物像と求められる役割についての認識を共有することを目指す。

達成目標

地域づくりに関する多面的な取り組みを学ぶ過程で、地域づくりにおける「人づくり・組織づくり」の意義を理解し、地域づくりに必要な基礎的な知識を身につける。その上で、地域づくりの担い手に求められる「調査分析能力」と「ファシリテーション能力」を修得することへの意欲を獲得する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス： 講義概要と講義計画（宇田）
- 第2回 地域づくりとは何か？： 何のために、誰が、どのように？（宇田）
- 第3回 地域の今を見つめる①： 放射性廃棄物処分問題にみるヒト、モノ、コト（宇田）
- 第4回 地域の今を見つめる②： 東京ごみ戦争にみるヒト、モノ、コト（宇田）
- 第5回 文化と地域づくり①： 地域の文化とは何か？ 地域づくりとどう関連するのか？
－地域から見つめる文化・文化から見つめる地域－（鈴木）
- 第6回 文化と地域づくり②： 文化を創る/支えるヒト・モノ・コト
－「地域づくり×文化」の具体例（実践例）－（鈴木）
- 第7回 福祉と地域づくり①： 患者（市民）の力が医療政策を変える（熊澤）
- 第8回 福祉と地域づくり②： 障害者に対する合理的配慮と課題（熊澤）
- 第9回 人材育成と地域づくり①： 地域のための人づくり・組織づくり（吉原）
- 第10回 人材育成と地域づくり②： 若者・子育て世代への支援（吉原）
- 第11回 地域ビジネスと地域づくり①： 徳島県上勝町の地域ビジネス（高橋(美)）
- 第12回 地域ビジネスと地域づくり②： 青森県二戸市の地域づくり（高橋(美)）
- 第13回 環境と地域づくり①： 地域社会における「自然環境」の活かし方とその効果（森田）
- 第14回 環境と地域づくり②： 環境配慮行動を促進する地域づくりとは（森田）
- 第15回 まとめ： これからの地域づくり 総合討論（高橋(美)・森田）

教科書・参考文献

教科書 指定しない

参考書 地域政策学事典
その他、必要に応じて講義内で紹介する

授業外での学習

シラバスに書かれた項目について、事前に新聞・雑誌・文献などから積極的に情報を集めておくこと。また、講義ノートを作成し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

期末レポートにより評価する。総合討論（第15回）への積極的な参加は別途加点する。

履修上の注意

地域づくり学科のカリキュラム全体像を概観できる導入科目である。地域づくり学科教員が担当する。地域づくり学科への所属を考えている学生には優先して履修してほしい。

科目名 マーケティング
Title Marketing
科目区分 専門導入B

担当教員
教授 坪井 明彦 (ツボイ アキヒコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

マーケティングとは、企業が自社の標的市場の欲求を満足させることを目指して、企業行動を実践するに当たっての基本的な考え方である。標的市場の欲求を満足させるためには、標的市場のニーズに合うように、製品、価格、流通経路、プロモーションなどの手段をうまく組み合わせることが大切である。このような考え方は現在では、営利企業のみならず、非営利組織においても重要になってきている。講義では、新聞や雑誌などから実際の企業のマーケティング活動の実例に言及しながら、ターゲット市場の選定、マーケティング・ミックス、製品ライフサイクルなど、マーケティングの理論や基本的な考え方を習得することを目的とする。

達成目標

テレビや新聞、雑誌などで目にする企業や製品について、ターゲットは誰か、どのようなマーケティング・ミックスが用いられているかなどを自身で考えることができるとともに、自身が何か商品を企画・販売する立場になったときに、市場細分化、標的市場の選定、ポジショニングなどを考えるための基礎的な知識や思考力を身につけることが受講生の到達目標である。

スケジュール

回数	内容	講義概要、スケジュール、評価方法等
第1回	イントロダクション	マーケティングの基本
第2回	マーケティングの基本	マーケティング・ミックス、マーケティング・コンセプト
第3回	マーケティング・ミックス(1)	製品 新製品開発、ブランド
第4回	マーケティング・ミックス(2)	価格 価格の役割、市場浸透価格、上澄吸収価格
第5回	マーケティング・ミックス(3)	流通経路 チャンネル構築、チャンネル管理、チャンネル・パワー
第6回	マーケティング・ミックス(4)	プロモーション 広告、PR活動、人的販売、セールス・プロモーション
第7回	標的市場の選定	市場細分化、細分化基準
第8回	製品ライフサイクル	導入期、成長期、成熟期、衰退期
第9回	市場地位別マーケティング戦略(1)	市場地位の分類法、リーダーの戦略、
第10回	市場地位別マーケティング戦略(2)	チャレンジャーの戦略、ニッチャーの戦略、フォロワーの戦略
第11回	業界の構造分析(1)	5つの競争要因、既存企業間の対抗度、新規参入の脅威
第12回	業界の構造分析(2)	買い手(売り手)の交渉力、代替品の脅威
第13回	成長戦略と全社戦略	成長ベクトル、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント
第14回	事業の定義	事業の定義、ドメインの定義、イーベルの事業定義の方法
第15回	サービス・マーケティング	サービスの特性、サービスの分類

教科書・参考文献

教科書 沼上幹(2008)『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣(予定)

参考書 適宜紹介します。

授業外での学習

今回の授業範囲に関連する項目について、指定したテキストをよく読み、予習しておくほか、新聞、雑誌などからも積極的に情報収集すること。また、授業後は必ず提示した資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

定期試験と受講状況(平常点)を70%と30%の割合で評価します。出席が授業回数の3分の2未満の人には単位を付与しません。なお、出席に関して不正行為を行った場合は平常点を0点とします。

履修上の注意

遅刻は平常点から減点します。

科目名 地域循環共生論
Title Biogeochemical Cycling and Symbiosis
科目区分 専門導入B

教授 飯島 明宏 (イイジマ アキヒロ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

従来の社会経済システムは大量生産、大量消費、大量廃棄型の形態であり、これに起因する環境負荷が自然の再生能力や浄化能力を超えて増大している。持続可能な発展を遂げるためには、環境への負荷をできる限り少ないとし、「循環」を基調とする経済社会システムを実現する必要がある。また、私たちの社会は環境制約、資源制約の下に形成されるため、自然生態系との「共生」を常に確保して行かなければならない。本講義では、群馬県庁・群馬県衛生環境研究所での環境研究の経験を活かして、顕在化する環境問題の実態や原因に関する基本的な事項から、生物多様性の保全や低炭素社会の実現に向けた具体的な政策事例までを幅広く講義する。循環と共生の概念を理解し、地域における循環共生型社会の形成に向けた政策プロセスについて、総合的に考える力を養うことを目的とする。

達成目標

顕在化する環境制約、資源制約の背景にある20世紀型社会経済システムの実像を捉える。循環共生型社会のひとつの形態である、低炭素社会の実現に向けた政策プロセスを理解する。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション / 講義計画、評価方法等の説明、講義の導入
- 第2回 循環共生型社会に向けた胎動 (1) / 公害問題から環境問題へ
- 第3回 循環共生型社会に向けた胎動 (2) / 責任は誰が負うべきか
- 第4回 20世紀型社会経済システムの特徴 / 大量生産、大量消費、大量廃棄
- 第5回 環境問題に関する国際的取り組み
- 第6回 自然生態系との共生 (1) / 生物多様性の恩恵
- 第7回 自然生態系との共生 (2) / 生物多様性保全のための国際的枠組み
- 第8回 自然生態系との共生 (3) / 生物多様性保全のための政策的アプローチ
- 第9回 自然生態系との共生 (4) / 地域における生物多様性保全
- 第10回 大いなる自然の恵み / 環境の利用と保全の仕組み
- 第11回 低炭素社会の構築 (1) / 気候変動の脅威
- 第12回 低炭素社会の構築 (2) / 気候変動枠組条約と京都議定書
- 第13回 低炭素社会の構築 (3) / 森林吸収源と京都メカニズム
- 第14回 低炭素社会の構築 (4) / 気候変動政策の行方
- 第15回 講義のまとめ

教科書・参考文献

教科書 指定しない

参考書 「循環から地域を見る」 近藤加代子 他 海鳥社
「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」 環境省編 など

授業外での学習

事前に配布する資料に目を通し、授業範囲を把握した上で講義に出席すること。また、配布資料の他にノートを作成し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

平常点および中間試験 (20%)、定期試験 (80%) により評価する。

履修上の注意

化学物質の循環に関するやや専門的な内容については、配布資料や映像資料を参照しながら十分な解説を加えるが、なるべく自主的に勉強し、理解できるように努めること。

科目名 地域医療保健論
Title Regional Health Service
科目区分 専門導入B

担当教員 熊澤 利和 (クマザワ トシカズ)
担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1 単位区分 選択 単位数 2 開講時期 後期

目的

我が国の保健・医療の制度について学習します。
特に、地域政策学における主要な保健・医療・福祉に関する政策を考えるために、ライフステージ踏まえて健康を脅かす疾病等とそれらに対する政策を中心に学習をします。加えて、「生命や生活」を守るということから健康に関する学習の意義や方法を考えられることが望ましい。

達成目標

- ① 我が国の保健医療制度と社会福祉制度が密接に関連していることが理解できる。
- ② 各ライフステージの健康上の危機と保健医療対策と政策について理解できる。
- ③ 包括的、継続的な健康に対する個別・組織・地域の支援の必要性が理解できる
- ④ 緩和ケア、ターミナルケアにおける課題について理解できる。

スケジュール

- 第1回 健康の保持・増進に対する政策(1) : 健康について
- 第2回 健康の保持・増進に対する政策(2) : わが国のヘルスプロモーション政策と現状 健康日本21の課題
- 第3回 保健医療政策の現状と課題(1) : わが国の疾病構造の変化と課題
- 第4回 保健医療政策の現状と課題(2) : NCDs (Non-Communicable Diseases) と予防対策
- 第5回 地域保健医療連携と対策(1) : がん対策を中心
- 第6回 地域保健医療連携と対策(2) : 精神疾患を中心
- 第7回 地域保健医療連携と対策(3) : 認知症と認知症高齢者を中心に
- 第8回 地域保健医療連携と対策(4) : 地域医療構想 第7次医療計画 医療と介護の一体改革
- 第9回 地域保健医療連携と対策(5) : 地域医療構想と救急医療
- 第10回 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律と感染症対策 STDを中心に
- 第11回 母子保健及び子どもの健康に関する政策と課題(母子保健制度 リプロダクツ・ヘルス/ライツ等)
- 第12回 生命倫理 : インフォームド・コンセントと意思決定を中心に
- 第13回 生命倫理 : 母体保護法 出生前診断と中絶をめぐる問題を中心に
- 第14回 生命倫理 : 終末期ケアを中心に
- 第15回 まとめ : 現代医療や健康政策が、私たちに問いかけてくるもの ~ 「いのち」を巡る問題について考える

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。課題図書は、講義時に紹介をします。

参考書 国民衛生の動向 厚生労働白書
安藤 泰至 『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店 (2019)

授業外での学習

講義時に、文献、事前学習の内容を提示するので、予習をして講義に望むこと。また事後学習に対しては、毎回の講義時にテーマを提示するので、それについて学習をすること。

評価方法

期末試験 (100点満点) ※2/3以上の出席がない場合、大学に規定に基づきE評価とする。

履修上の注意

初回到講義の進め方、評価等履修上重要なことを説明します。
講義内容を理解することにとどまらず、質問、議論への参加など、受講者の積極的な取り組みを期待する。
また、医療、社会福祉関連のニュース、新聞などは目を通し動向などに注目してほしい。
講義の妨げとなる行為をした場合、不合格とする場合がある。

科目名 社会福祉論
Title Social Welfare
科目区分 専門導入B

教授 原 史子 (ハラ アヤコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

社会福祉は実践の学である。そして、一人ひとりの人権を守り、その人がその人らしく人生を歩むための共生の学である。社会福祉実践を通じ、その意味と方法を学びとるなかで人間の多様な個性や可能性を知ることができる。

本講義では、社会福祉の全体像を把握することを目的とする。具体的には、①社会福祉の基本的な論点や背景について、②日本の社会福祉のしくみ、③社会福祉を誰がどのように担っているのか、について理解することを目的とする。

さらに、支援を必要としている人にどうすれば的確に届くのかというソーシャルワークの側面と、なぜそのような状態になったのが社会環境のあり方等を検討し方策を具体的に検討するという側面の2つから社会福祉が成

達成目標

- ・ 現代日本の社会問題を学び、そこから生じる社会福祉の課題を論じることができる。
- ・ 社会福祉の発展過程を学び、社会福祉の基本的な法制度やしくみを説明できる。
- ・ 社会福祉の理念をふまえた社会福祉援助の考え方を説明できる。
- ・ 社会福祉実践の実際を学ぶとともに担い手について説明できる。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション (講義概要、授業の進め方、評価方法、教科書・参考文献の紹介等)
- 第2回 現代社会と社会福祉
- 第3回 社会福祉のあゆみー福祉国家から福祉社会へー
- 第4回 日本の社会福祉の特徴ー福祉国家レジームー
- 第5回 社会福祉と人権
- 第6回 社会福祉のしくみ
- 第7回 家族と社会福祉
- 第8回 地域社会と社会福祉
- 第9回 障害のある人と生きること
- 第10回 高齢社会を生きること
- 第11回 過疎地域での生活と福祉の役割
- 第12回 外国につながる人の生活と福祉
- 第13回 社会福祉の現場で働く専門職
- 第14回 ボランティア・NPOの果たす役割
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 三本松政之、坂田周一編 (2016) 『はじめて学ぶひとのための社会福祉』 誠信書房

参考書 厚生労働省『厚生労働白書』、『社会福祉小六法』

授業外での学習

- ・ 毎回の授業に向けて教科書や配布資料の指定箇所を精読し授業内容を把握した上で講義に出席すること。
- ・ 授業期間中にレポートを課す (詳細は後日提示する)。
- ・ 日常的に社会福祉に関わる新聞記事、ニュースに関心を払うこと。

評価方法

定期試験60%、中間レポート20%、受講状況 (コメントシート) 20%の割合で総合的に評価する。

履修上の注意

- ・ 講義中の私語・携帯電話の使用、及び遅刻・途中退室等は厳禁。

科目名 地域文化論
Title Regional Cultures
科目区分 専門導入B

准教授 鈴木 耕太郎 (スズキ コウタロウ)
担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

「文化」という言葉を聞いたとき、思い浮かべることは何だろうか。能や歌舞伎といった芸能だろうか。あるいは茶道や華道といった芸道だろうか。人によっては、四季ごとに行われる年中行事を思い浮かべるかもしれない。しかし、よく考えれば、私たちの生活そのものが、そのまま「文化」だということに気づく。文化は決して非日常(ハレ)の中だけにあるのではない。「地域」とは、そのような私たちの「文化」的な日常を支える大きな基盤である。現在、地域に対する視座は多様化しているが、本講義では地域の中から文化を見つめ、また文化の中から地域を見つめていくことに主眼を置く。同時に、地域の歴史(過去・現在、そして未来)について文化から捉え返していくことを目的としたい。

達成目標

- (1)各受講生が地域の中の文化を知識として学び、その文化の意義を自分に引きつけて考える思考を獲得する。
- (2)各受講生が、地域や文化を特別視せずに、「自分」という存在の一部として受け入れる認識を形成する。
- (3)各受講生が、自分の一部である地域や文化について、問題点はないのか批判的な検討ができる視座を身につける。

スケジュール

- | | |
|------|---|
| 第1回 | イントロダクション(受講上の注意/評価方法等の確認など)+地域文化とは何か—定義と意義を考える |
| 第2回 | 日常の中の文化(1)「衣」に関する文化と民俗—織物と民俗(北関東中心) |
| 第3回 | 日常の中の文化(2)「食」と「住」の文化と民俗—「粉物」食文化と「お蚕様」中心の生活設計(北関東中心) |
| 第4回 | 日常の中の文化(3)日常生活の中の禁忌—「～してはならない」の背景にあるもの |
| 第5回 | 地域の中の文化(1)街角遺産を探る—身の周りの「遺産」を探る |
| 第6回 | 地域の中の文化(2)地域の歴史と地名の誕生—群馬県内の例を中心に |
| 第7回 | 非日常の中の文化(1)「祭」の中に見る神と仏—祭とは何なのか |
| 第8回 | 非日常の中の文化(2)市民祭・納涼祭の非宗教性—広がる「無宗教」祭礼の歴史的過程 |
| 第9回 | 非日常の中の文化(3)「冠」と「婚」のいま・むかし—めでたい場の変容とその背景 |
| 第10回 | 非日常の中の文化(4)「葬」と「祭」あるいは「出産」のいま・むかし—「いのち」とどう向き合うか |
| 第11回 | 地域文化を学ぶ(1)高崎に残る伝説と昔話—佐野の船橋、片目の鰻など |
| 第12回 | 地域文化を学ぶ(2)神と仏の上州—中世『神道集』の世界(1)赤城大明神・伊香保大明神・常将神社 |
| 第13回 | 地域文化を学ぶ(3)神と仏の上州—中世『神道集』の世界(2)貫前神社・子持神社 |
| 第14回 | 総括的展望—「上毛かるた」はなぜ浸透したか |
| 第15回 | 地域の中の文化(番外)実践・街角の中に文化を見出す—有志による発表 |

教科書・参考文献

教科書 レジユメを配布するため、特に使用しない。ただし、下記の参考書は余裕があれば各自、一読しておくこと。

参考書 『もの与人間の文化史』シリーズ(法政大学出版社、既刊179、1969年～現在)
千田稔ほか『京都まちかど遺産めぐり』(ナカニシヤ出版、2013年) など。

授業外での学習

講義ごとに参考文献を明示する。気になる文献は目を通すこと。また、第13回目までに小レポートを提出してもらう。参考文献(『京都まちかど遺産めぐり』)を参照に、身の周りの「まちかど遺産」を調べておくこと(第14回目の講義では数名に小レポート内容を発表してもらう。評価にもつながるので、立候補をお願いしたい)。

評価方法

目安は期末考査(記述型中心)70%、小レポート10%、リアクションペーパー/授業態度20%。最終的に総合して成績評価を算出。なお、小レポートは必ず提出のこと(未提出者は大幅減点)。また、リアクションペーパーの提出率が低い、または毎回その内容が薄い場合などは、出席しても評価にはつながらないので注意すること。

履修上の注意

可能な限り「民俗学」も受講することをお勧めする。なお、講義後にはリアクションペーパーを提出してもらう(3~5回)。その内容も評価に含まれるので毎回、真剣に書くこと。もちろん、講義中の態度も評価対象なので、受講生各自のメリハリのきいた姿勢に期待する。ぜひ、積極的に講義に参加する姿勢を見せてもらいたい。なお、講義外のフィールドワークも希望者がいれば行う可能性がある。

科目名 文化政策論
Title Cultural Policies
科目区分 専門導入B

教授 友岡 邦之 (トモオカ クニユキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義では、日本の地方自治体の文化政策の事例を中心に、現代の先進諸国における文化政策の実態と、それを理解するための諸学説を体系的に学習する。文化や芸術は多様で新しい価値が生まれる領域であり、それを公的に支えようとしても、社会的コンセンサスを得ることが難しいという側面がある。そのため、文化の支援方法については各社会で様々な試みがなされているのだが、その文化的領域への対処の相違は、民主主義や公共性、共同性といった問題を考える際にも重要なヒントを与えてくれる。そうした問題を考えるために、本講義では重要な理論・学説をおさえつつ、先進諸国における文化活動を支援する制度を比較検討する。さらに、地域社会の活性化にとって文化的資源がどのような役割を果たしているのかについても考えていくことにしたい。

達成目標

- ・ 指定管理者制度やアーツカウンシルをはじめとする、自治体文化政策を支える制度や組織の実態を理解する。
- ・ 国レベルの文化政策の特徴を、海外の事例との比較を通じて理解する。
- ・ 文化政策をとらえるための、理論枠組みの妥当性を判断する視点を身につける。

スケジュール

第1回	イントロダクション	講義概要説明と基礎知識の確認
第2回	文化を支える施策・施設	「文化政策」の概要、政策の基本的な方向性
第3回	文化支援の方針 (1)	直接支援と間接支援
第4回	文化支援の方針 (2)	パターナリズムとポピュリズム
第5回	文化政策の制度 (1)	指定管理者制度 1
第6回	文化政策の制度 (2)	指定管理者制度 2
第7回	文化政策の制度 (3)	指定管理者制度 3
第8回	地域社会と文化的資源 (1)	創造都市戦略 1
第9回	地域社会と文化的資源 (2)	創造都市戦略 2
第10回	地域社会と文化的資源 (3)	創造都市戦略 3
第11回	学説の検討 R.フロリダ等の見解をめぐって	
第12回	文化事業の助成と評価 (1)	評価手法の検討
第13回	文化事業の助成と評価 (2)	アーツカウンシルの可能性
第14回	海外の文化政策 (1)	イギリス、フランス
第15回	海外の文化政策 (2)	ドイツ、アメリカ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 野田邦弘『文化政策の展開』(学芸出版社)
デイヴィッド・スロスビー『文化政策の経済学』(ミネルヴァ書房)

授業外での学習

「文化政策」「文化行政」というキーワードに注目して新聞記事や時事的な情報を収集し、政策的に評価すること。

評価方法

毎回実施する小テストまたはリアクション・ペーパーの内容(40%)、および期末試験の結果(60%)で評価する。

履修上の注意

私語・遅刻は厳禁。その他、マナーに関しては厳しく対処する。積極的な読書と自主学習を心がけている者の受講を歓迎する。

科目名 地域社会学
Title Regional Sociology
科目区分 専門導入B

担当教員
非常勤講師 横山 智樹 (ヨコヤマ トモキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義では「地域」という視点から、リスクや危機を内包する現代社会における「暮らし」を、社会的な視点から認識・理解できるようになることを目的としている。

講義の前半(第1回~6回)では、農村・都市・地域についての古典的な社会学理論から「地域」の構成や成り立ち、仕組みについて学ぶ。後半では、過疎・過密/開発・政策/環境・災害/リスク・コミュニティなど「地域」をめぐる現代的な課題や、原発事故を巡る諸問題について学び、具体的に地域を調べる方法論についても解説を行う。

達成目標

達成目標は、次の3点である。①「地域」の成り立ちや仕組みについて、地域社会学の観点から理解し、説明できること。②「地域」をめぐる様々な現代的課題について理解し、説明できること。③「地域」をどのように知ることができるのか、その方法を理解し、説明できること。

スケジュール

- 第1回 「地域」とは何か?
- 第2回 統治と自治-公権力と自己統治をめくって-
- 第3回 いえ・家族・ライフコース-地域生活の変化-
- 第4回 むら-農村の暮らしを支える仕組み-
- 第5回 まち-町内会・自治会はなぜ必要なのか?-
- 第6回 都市-人の密集と交流の場-
- 第7回 人口・世代・移動-村の過疎と都市の過密-
- 第8回 開発・政策-高度成長期の功罪と現代の課題-
- 第9回 災害・環境-自然災害・公害と生活環境の変化-
- 第10回 リスク-近現代の増大する危機-
- 第11回 コミュニティ-リスクや危機への共同対処は可能か?-
- 第12回 大規模災害(原発事故)をめぐる問題①-政策の歴史と現在-
- 第13回 大規模災害(原発事故)をめぐる問題②-復旧・復興をめぐる地域と暮らし-
- 第14回 地域を調べる方法①-資料調査-
- 第15回 地域を調べる方法②-フィールドワーク-

教科書・参考文献

教科書 特に指定せず、授業で配布するレジユメを基本とする。他、必要に応じて講義中に適宜紹介する。

参考書 森岡清志編『地域の社会学』(有斐閣アルマ、2008年)、地域社会学学会編『キーワード地域社会学』(ハーベスト社、2011年)、山下祐介『リスク・コミュニティ論』(弘文堂、2008年)

授業外での学習

授業で学んだ内容を、自分の経験や記憶と結びつけて理解するとともに、ニュースや新聞などを欠かさずチェックすることで、自分なりに考える力を養ってほしい。そのためにも、講義内容の理解を深めるために教科書・参考書の該当箇所を予復習するだけでなく、自分の関心のあるテーマは進んで情報収集を進めることが望ましい。

評価方法

①講義への参加状況(貢献度、コメントシート):20%、②中間レポート:30%、③期末試験(または期末レポート。試験実施の場合は持ち込み不可。):50%
成績は、①②③を総合的に判断して評価を行う。

履修上の注意

情報が溢れる現代社会において、より正確な情報を集め、自分なりの考えを養う必要がある。そうした能力の習得のためにも、特に関心のあることについては、授業中の発言やコメントシートへの意見記入など積極的な姿勢で取り組むことを期待する。なお講義の進捗状況や、受講生の理解度によって内容を変更することがある。レポート課題での剽窃や筆記試験での不正行為、不必要な私語の多用による授業妨害等は厳正に対処を行う。

科目名 生涯学習概論
Title Lifelong Learning
科目区分 専門導入B

担当教員
教授 櫻井 常矢 (サクライ ツネヤ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

生涯学習とは、少子高齢化など、急激な社会構造の変化への対応という観点から、従来の日本の教育システム（学校教育・社会教育・家庭教育等）を総合的に再編成するものである。生涯学習の理念とその展開には、諸外国それぞれ固有のものがあるが、日本における生涯学習とはどのように導入され、具体的な制度・政策の中に現われているのであろうか。これを社会教育（行政・施設・地域学習等）、学校教育（教育課程、学力・評価等）の構造・変容や現代の地域づくり実践等との関連から着目し、現代社会における生涯学習の意味と展開について考察する。講義では、生涯学習論に必要な基礎知識として学校教育及び社会教育の法制度に関する説明も随時加える。

達成目標

本講義では、①諸外国の学習社会論などをもとに生涯学習の理念について理解できるようになること、②日本の生涯学習政策の特徴や課題について理解できるようになることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 インタロクセッション：講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 学校教育と「成人の学習」：日本社会における教育・学習 コミュニティ
- 第3回 生涯学習の理念（1）：ホールラングランレポート
- 第4回 生涯学習の理念（2）：学習社会論 / フォール報告書
- 第5回 労働社会と生涯学習：技術革新 / 情報化 / 労働市場政策
- 第6回 少子高齢化・家族の変化と生涯学習：高齢社会 / ライフコースの多様化 / 女性の生き方
- 第7回 社会教育とは何か：法制度 / 学習内容 / 方法 / 社会教育主事
- 第8回 日本における生涯学習政策の形成（1）：「生涯教育」の登場と経済界の動き
- 第9回 日本における生涯学習政策の形成（2）：臨時教育審議会答申
- 第10回 日本における生涯学習政策の形成（3）：生涯学習振興法
- 第11回 生涯学習の実践と公共性：学習内容 / 方法 / 支援者
- 第12回 リカレント教育と大学・自治体・企業：生涯学習社会に果たす大学、企業、自治体との役割
- 第13回 まちづくりと生涯学習：自治体生涯学習の特徴と課題
- 第14回 分権時代の生涯学習：分権社会による生涯学習への要請とその課題
- 第15回 まとめ：これからの生涯学習とは

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 佐々木正治編『21世紀の生涯学習』福村出版、2000年、田中雅文他著『テキスト生涯学習』学文社、2009年、『社会教育・生涯学習ガイドブック第9版』エイデル研究所、2017年 ほか。

授業外での学習

次回の講義に関連する内容について講義内で指定（配布）した資料など予習をしておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また講義後は、必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着に取り組むこと。

評価方法

受講状況並びに小テスト・レポート等の講義期間中の課題（40%）そして定期試験（60%）をもとに総合的に評価する。

履修上の注意

特に教科書は使用せず適宜必要な資料等を多く配布するため、各自がよく整理をして積極的に講義に参加すること。

科目名 フィールドワーク入門
Title Introduction to Fieldwork
科目区分 専門導入B

担当教員
准教授 宇田 和子 (ウダ カズコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

本科目は社会調査の入門科目である。本講義では、
(1) 社会調査という研究手法の成り立ちや具体的な成果について学び、
(2) フィールドワークの準備から実施、分析、報告までのプロセスを概観し、
(3) さまざまな調査技法の特徴と相互補完性を明らかにする。

達成目標

さまざまなフィールドワークの技法について理解できる。
自らの研究にとって適切な調査技法を選択し、調査企画を設計できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス—講義の主題、概要、評価方法
- 第2回 社会調査の特徴と展開
- 第3回 社会調査の成果例①『ジャック・ローラー』—質的データ研究
- 第4回 社会調査の成果例②『不平等が健康を損なう』—量的データ研究
- 第5回 社会調査の成果例③『家族解体』—質と量の活用
- 第6回 調査の問いを立てるには
- 第7回 量的調査の方法
- 第8回 量的調査の実践
- 第9回 量的データの分析
- 第10回 質的調査の方法
- 第11回 質的調査の実践
- 第12回 質的データの分析
- 第13回 ライティング・カルチャー・ショック
- 第14回 社会調査の侵襲性
- 第15回 全体のまとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない

参考書 大谷信介ほか, 2013『新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』ミネルヴァ書房
好井裕明, 2006『「あたりまえ」を疑う社会学：質的調査のセンス』光文社

授業外での学習

講義内で紹介する文献を積極的に読むことを推奨する。

評価方法

定期試験100%。ただし定期試験の点数だけでは不合格となる場合、平常点(講義内レポートなど)を15%まで加味する。この場合は最高で「可」の評価となる。

履修上の注意

「社会調査(質)」や「社会調査(量)」などの調査関連科目を履修する前に履修することが望ましい。

科目名 観光産業論
Title Tourism Industries
科目区分 専門導入B

担当教員
准教授 井手 拓郎 (イデ タクロウ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

本科目の目的は、観光の供給側である観光産業について、その範囲や具体的な産業の実態を理解することである。観光者が求める観光体験を営利事業として提供する観光事業の総称と考えられる「観光産業」は、その概念の曖昧さから実像を端的に理解することは難しい。

そこで本科目では、観光産業の特徴を整理した上で、その実像を把握・理解できるよう、観光に関わる各事業を個別に概観していく。具体的には、宿泊・交通運輸・旅行といった観光の中心事業、土産品業やガイド業などの観光関連事業、さらに他産業と観光の関係を解説し、それらの現状と課題についても把握していく。

達成目標

- (1) 観光産業の特徴を理解する。
- (2) 観光と関連する各事業の現状を整理し、それを踏まえながら課題について理解する。
- (3) 上記(1)(2)を踏まえ、観光産業の全体像及び各事業が抱える課題を説明できる。

スケジュール

- 第1回 講義オリエンテーション(講義概要、スケジュール、評価方法、受講ルール等)
- 第2回 観光産業の特徴、交通運輸業(1)
- 第3回 交通運輸業(2)
- 第4回 交通運輸業(3)
- 第5回 旅行業(1)
- 第6回 旅行業(2)
- 第7回 宿泊業(1)
- 第8回 宿泊業(2)
- 第9回 その他の観光関連事業(1)
- 第10回 その他の観光関連事業(2)
- 第11回 その他の観光関連事業(3)
- 第12回 他産業と観光(1)
- 第13回 他産業と観光(2)
- 第14回 他産業と観光(3)
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 スクリーン投影のPowerPointスライドを中心に講義を進める。

参考書 講義内で適宜紹介する。

授業外での学習

予習：講義中に次回講義に向けた予習を指示する。おもに関連文献の探索・読み込みである。
復習：講義後は、自身のノートに当該回で学習したことをまとめておく。さらに、講義内で指示された課題がある場合は積極的に取り組み、締切までに提出する。

評価方法

講義後課題40%(小テストやリアクションペーパー)、最終試験(または最終レポート)60%
※Covid-19の影響による授業方法変更や履修者数・講義理解度によって、変更する可能性がある。その場合は、その都度説明を行う。

履修上の注意

- (1) グループワークを行う可能性があるため、受講にあたっては能動的な姿勢が必須である。また、講義計画に変更が生じた場合は、講義内で変更内容を説明する。
- (2) 遅刻や授業中の私語、スマートフォンなどの電子端末機器の使用は厳禁である。その他の受講ルールは第1回講義で説明する。そのため履修希望者は必ず第1回講義に出席すること。

科目名 観光政策論
Title Tourism Policies
科目区分 専門導入B

担当教員
非常勤講師 渋谷 和樹 (シブヤ カズキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義は①観光政策の変遷、②現行の観光政策立案の背景と目的、③政策づくり・政策評価の材料としての観光統計、から構成される。まず、観光政策の変遷から立案の社会的背景を理解する。次に、現行の観光政策をいくつか取り上げ、観光振興、観光形態の変化への対応、安全管理等に果たす役割と課題を検討する。最後に、政策の立案と評価に欠かすことのできない観光統計を扱い、観光統計の基礎的知識を学習するとともに、観光統計を用いた政策の評価を行う。
上記の学習を通じて、観光政策を意図や社会的状況から正しく理解することで、受講生自身が観光政策の果たす役割と課題を指摘できるようになるとともに、観光政策を客観的に評価できるようになることを目指す。

達成目標

1. 観光政策の意図の変化を、観光を取り巻く社会的状況と関連させて説明することができる。
2. 観光政策の意義と課題を、具体的事例を用いながら説明することができる。
3. 客観的な資料を用いて、観光政策に対して評価・提言することができる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション - 観光政策とは
- 第2回 日本における戦後の観光政策 - 国土政策との関連から
- 第3回 国際観光政策の変遷 - インバウンドとアウトバウンドの変遷からみる国際観光政策のねらい
- 第4回 観光関連法規の基礎 - 観光基本法と観光立国推進基本法など
- 第5回 観光地づくりと政策 - 「魅力ある観光地の形成に向けた観光資源の整備」の支援
- 第6回 観光推進組織 - DMOの役割と課題
- 第7回 観光の変化と観光政策(1) - 旅行業法と通訳案内士法の改正からの検討
- 第8回 観光の変化と観光政策(2) - 宿泊関連政策による観光形態の変化への対応
- 第9回 観光人材育成 - 観光経営人材と観光教育のあり方
- 第10回 観光と安全管理 - 政策によるリスクへの対応
- 第11回 コロナ禍の観光政策 - 観光産業 / 観光者の管理と支援
- 第12回 観光プロモーション関連政策 - クールジャパン戦略、ビジット・ジャパン・キャンペーンの意義
- 第13回 観光統計(1) - 観光統計の種類、概要
- 第14回 観光統計(2) - 観光統計による観光政策の評価
- 第15回 まとめと振り返り

教科書・参考文献

教科書 指定しない。

参考書 適宜授業中に紹介する。

授業外での学習

日常的に観光政策に関するニュースやメディア情報に目を通し、動向を把握するようにしてください。
授業で紹介した文献や資料を読み、政策への理解を深めてください。

評価方法

各授業で課すコメントシート・小レポート(60%)、期末レポート(40%)で評価する。

履修上の注意

講義の進め方、受講ルールを第1回授業で説明するため、受講希望者は必ず出席すること。

科目名 観光経営論
Title Tourism Management
科目区分 専門導入B

教授 井門 隆夫 (イカド タカオ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------	----------	------------

目的

本講義では、教員の観光産業に関する事業再生の現場経験を活かし、観光産業の経営分析を行いながら、論理的思考力をはじめとする「経営者の発想」を養うことを目的とする。
大きく3つのタームに分け、1~5回では「ビジネスの基本的構造」とその成績表である決算書(B/S、P/L)の見方について初心者向けに解説する。6~10回では、「代表的な観光業」をケースとして、各業界のビジネスの特徴や代表的企業について決算書を参照しながら紹介。地方自治体に関しても政策と財政の側面から「経営者の発想」で概説する。11~15回は、近年の観光業を取り巻く経営的課題を採りあげ、今後の観光業の活性化と地方創生にどう結び付けていけばよいか、受講生とともに、事業の当事者になったつもりで考えていきたい。

達成目標

- ①観光経営に関する知的好奇心を養う：日本の観光業にはどのような経営的特徴や課題があるか興味を持つ。
- ②論理的思考力を養う：ロジカルシンキングは経営的発想の基本。物事を論理的にとらえられるようになる。
- ③数字に慣れる：ロジカルに考えるうえで数字の活用は必須。事例に触れることで、数字アレルギーをなくす。

スケジュール

- | 回数 | 内容 | 備考 |
|------|------------|--|
| 第1回 | ガイダンス | ～講義の進め方と評価方法、論理的思考力の基礎(考える練習にトライ) |
| 第2回 | ビジネスの基礎 | ～消費者発想から生産者発想へ(少子化の時代にブライダルビジネスを伸ばすには) |
| 第3回 | ビジネスの3ステップ | ～ビジネスの成績書「決算書(B/S、P/L)の構造と事業活動とのつながり |
| 第4回 | ビジネスの主要指標① | ～ROEをはじめとする財務指標の意味と事業活動とのつながり |
| 第5回 | ビジネスの主要指標② | ～財務諸表に表れない指標「労働生産性」の意味と重要性(加を生むのもト次第) |
| 第6回 | 観光ビジネス研究① | ～旅行業(JTB、H.I.S.、KNT-CT、など) |
| 第7回 | 観光ビジネス研究② | ～宿泊業(帝国ホテル、外資系ホテル、バジェットホテル、など) |
| 第8回 | 観光ビジネス研究③ | ～航空業(JAL、ANA、スカイマーク、など) |
| 第9回 | 観光ビジネス研究④ | ～鉄道業(JR各社、京成電鉄、西武ホールディングス、など) |
| 第10回 | 観光ビジネス研究⑤ | ～テーマパーク業(オリエンタルランド) |
| 第11回 | 観光経営の課題① | ～観光立国日本の経済的背景(国策としての観光の意義と背景) |
| 第12回 | 観光経営の課題② | ～地方自治体の観光(観光協会からDMO、DMCへ) |
| 第13回 | 観光経営の課題③ | ～地方の人材不足(地方で働く魅力と課題) |
| 第14回 | 観光経営の課題④ | ～観光産業で働く意義(ホスピタリティ産業の現場と課題) |
| 第15回 | ふりかえりとまとめ | ～地方創生を図るには(必要な経営的発想力と人材育成) |

教科書・参考文献

教科書 講義資料は毎回スクリーンに投影。講義終了後、ポータルに保存する。

参考書 「会社四季報」「会社四季報業界地図」(いずれも東洋経済新報社)。その他授業で随時紹介する。

授業外での学習

授業中に紹介した企業のうち興味のある会社について、会社ホームページ(IR情報)を閲覧したり、ブックマークしておくこと。授業外学修の指示があった場合は、指示内容について考えてくること。

評価方法

毎回のワークシート(毎回講義中に出される問いを考えながら回答をアプリに入力または用紙に記入し講義終了後提出。)60%
最終レポート(興味ある複数企業に関する経営分析を行う)40%

履修上の注意

授業は欠席しないことが前提ですが、欠席(公欠等を含む)の場合は必ず欠席した回の授業資料をポータルで確認し、次回の授業に臨むこと。

科目名 社会起業論
Title Social Entrepreneurship
科目区分 専門導入B

教授 八木橋 慶一 (ヤギハシ ケイチ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

社会起業は、社会問題（貧困、福祉、教育、環境など）をビジネスの手法を通じて解決をはかる取り組みとされます。そのような事業を行う組織が一般には社会的企業と呼ばれ、彼らは事業で上げた利益は株主のために使うのではなく、事業への再投資とコミュニティのために活用すると強調します。本講義では、この複雑な性格を持つ社会起業・社会的企業について、ソーシャル・イノベーションや社会的経済といった関連理論、外国（とくに英国）との比較やケーススタディを通じてその実態をみていきます。社会的企業の特徴、日本での捉え方を理解し、「社会を変える仕事」「社会起業」とは何であるのかについて、受講生が自分の意見を持てるようになることを目的とします。

達成目標

①社会起業・社会的企業の多様性、他のセクター（営利法人や協同組合、NPO）との関係性を理解する。②外国の社会起業・社会的企業との比較を通じて、日本の社会起業・社会的企業の特徴を把握する。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション：講義概要・講義の進め方・成績評価
- 第2回 社会起業・社会的企業の定義と関連用語
- 第3回 欧米の社会起業・社会的企業
- 第4回 日本の社会起業・社会的企業
- 第5回 社会的企業の事業戦略：ソーシャル・イノベーションとは？
- 第6回 日本のソーシャルビジネスの実態
- 第7回 ソーシャル・ファイナンスと社会的企業の評価
- 第8回 （ゲストスピーカー：社会起業家を予定）
- 第9回 福祉社会と社会起業
- 第10回 社会起業と都市①：ロンドン
- 第11回 社会起業と都市②：英国の地方都市から
- 第12回 社会起業と都市③：横浜
- 第13回 福祉社会とコモンズ：社会起業の視点から
- 第14回 （ゲストスピーカー：社会的企業関係者の予定）
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

- 教科書 山本隆編『社会的経済：もうひとつの経済』法律文化社2014 山本隆・山本恵子・八木橋慶一・正野良幸『福祉社会デザイン論』敬文堂2021
- 参考書 駒崎弘樹『社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門』PHP新書2016 谷本寛治編『ソーシャル・エンタープライズ：社会的企業の台頭』中央経済社2006

授業外での学習

次回の授業範囲について、教科書や配布資料などを読んで予習してください。また、授業後は必ずノートや配布資料に目を通し、復習をしてください。

評価方法

期末試験80%、授業内の課題20%で評価します。

履修上の注意

授業中の私語、携帯電話は厳禁です。

科目名 多文化共生論
Title Multicultural Community
科目区分 専門導入B

担当教員
准教授 木暮 律子 (コグレ リツコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

1990年代以降、日本に暮らす外国人が増え、地域社会への受け入れが課題となっている。本講義では、そうした多言語・多文化状況にある社会の実態を取り上げ、多文化共生に向けた地域づくりについて考察する。前半の講義では、日本における外国人政策の歴史を振り返りながら、日本で暮らす外国人と多文化共生をめぐる課題について、具体的な事例をもとに解説していく。後半の講義では、グループでのディスカッションやシミュレーションによる実践的なトレーニングを通して、多文化社会における問題を解決する力とコミュニケーション能力を身に付けていく。

達成目標

- 1) 多文化共生の地域づくりにおける現状と課題を理解する。
- 2) 多文化社会における問題を解決していく力を養う。
- 3) 多文化社会において自分を表現することのできるコミュニケーション能力を身に付ける。

スケジュール

回数	ガイダンス	講義概要の説明
第1回	ガイダンス	講義概要の説明
第2回	日本社会の現状	多言語・多文化化する日本社会
第3回	日本で暮らす外国人 (1)	在留資格
第4回	日本で暮らす外国人 (2)	在住外国人の抱える問題
第5回	日本で暮らす外国人 (3)	在日コリアン
第6回	日本で暮らす外国人 (4)	日系人
第7回	日本で暮らす外国人 (5)	研修生・技能実習生
第8回	日本で暮らす外国人 (6)	外国人看護師・介護福祉士
第9回	日本で暮らす外国人 (7)	留学生・難民
第10回	日本で暮らす外国人 (8)	中国帰国者、無国籍者
第11回	外国人政策の動向	日本及び諸外国の政策
第12回	多文化共生とコミュニケーション (1)	震災シミュレーション、災害時の情報提供
第13回	多文化共生とコミュニケーション (2)	外国人住民とのコミュニケーション
第14回	多文化共生と異文化の受容	異文化間コンフリクトへの対応と地域の取り組み
第15回	まとめ	多文化共生の地域づくりと人材育成

教科書・参考文献

教科書 指定しない。

参考書 講義のなかで紹介する。

授業外での学習

授業後に配布資料やノートを読み返して復習し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

受講状況・課題 (60%)、期末試験 (40%)
期末試験はレポート試験

履修上の注意

受講希望者は第1回の授業に必ず出席すること。出席回数が3分の2に達しない者は評価の対象としない。遅刻や授業中の私語・携帯電話は厳禁。ルールを守れない学生は受講を認めない。

科目名 国際観光論
Title International Tourism
科目区分 専門導入B

教授 丸山 奈穂 (マルヤマ ナホ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

International tourism is often regarded as one of the world's largest industry. This class explores the various impacts of international tourism by using case studies throughout the world. This course also introduces the concept of sustainable tourism development. We would conclude the class by discussing the opportunities and threats of international tourism development in Gunma and surrounding area(s).

本講義では、国際観光が地域や観光者に与える様々な影響について学ぶ。また、持続可能な観光開発の概念についても学ぶ。

達成目標

To learn the trend of international tourism in the world
To discuss various impacts of international tourism
To suggest the possible opportunities and threats of international tourism development in our region

スケジュール

- 第1回 Orientation: Introduction of the course
オリエンテーション：講義の紹介
- 第2回 Introduction: What is tourism
イントロダクション：観光とは何か？
- 第3回 Globalization and Tourism 1
グローバリゼーションと観光 1
- 第4回 Globalization and Tourism 2
グローバリゼーションと観光 2
- 第5回 Globalization and Tourism 3
グローバリゼーションと観光 3
- 第6回 Trend of international tourism 1
国際観光のトレンド 1
- 第7回 Trend of international tourism 2
国際観光のトレンド 2
- 第8回 Tourism and cultural interaction 1
観光と異文化交流 1
- 第9回 Tourism and cultural interaction 2
観光と異文化交流 2
- 第10回 Tourism impacts 1
観光が地域に与える影響 1
- 第11回 Tourism impacts 2
観光が地域に与える影響 2
- 第12回 Tourism impacts 3: Inbound tourism in Japan and its sustainability
ツーリズムインパクト 3：日本におけるインバウンド観光と持続可能性
- 第13回 Tourism impacts 4: Inbound tourism in Japan and its sustainability
ツーリズムインパクト 4：日本におけるインバウンド観光と持続可能性
- 第14回 Tourism impacts 5: Presentation Preparation
ツーリズムインパクト 5：プレゼンテーション準備
- 第15回 Tourism impacts 6: Presentation
ツーリズムインパクト 6：プレゼンテーション

教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書 Reisinger, Y (2009). International tourism: Culture and Behavior.
E. Chambers (2009). Native Tours: The anthropology of Travel and Tourism.

授業外での学習

授業ノートを見直し、理解が理解が不十分な場合は参考図書などで補うこと
また、教員から指示がある場合は、参考資料を事前に読み、専門用語等を確認しておくこと

評価方法

小テスト 1-2 40% / プレゼンテーション 20 %
映画レポート 10% / 授業への参画 15% / レポート 15 %

履修上の注意

This class is conducted in English. Students are expected to read the hand-outs and other materials before the class and actively participate in the class discussion.

科目名 観光資源論
Title Tourism Resources Management
科目区分 専門導入B

教授 片岡 美喜 (カタオカ ミキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

私達が観光へ出かけるとき、なんらかの“目当て”や“目的とする対象”を動機に観光へでかける。この動機の源泉こそが、有形無形の“観光資源”である。観光資源は自然環境や文化・歴史など、人の観光動機の数ほどに存在する。例えば、美しい自然風景やめずらしい動物を見に行くことやスキーなどで雪山を利用することは、自然資源を活用した観光となる。また、古い町並みをおとずれること、祭りや伝統芸能を楽しむこと、コンサートやスポーツ観戦に出かけることは、人が作り出した文化資源を活用した観光である。このように“観光”は、自然・文化・人など、あらゆるものに価値を見出したことで生まれる“観光資源”抜きには成立しない重要な存在である。この講義では、観光を“資源”の側面からとらえ、概念と成立の背景、識者による考え方の相違を理解したうえで、観光資源に関する基礎的な認識を養い、その保護と育成の方向性を学ぶ。

達成目標

- ・ 「観光」にまつわる基本的な認識を身につけることができる。
- ・ 「観光資源」とはなにか、自分の考えを含めて説明することができる。
- ・ 「観光資源」の活用と、保全・保護の問題に対して説明することができる。

スケジュール

回数	内容	備考
第1回	講義ガイダンス	* 講義の目的、授業評価、学んでほしいポイントなど
第2回	「観光」とはなにか (1)	旅の歴史、「観光」概念の生成
第3回	「観光」とはなにか (2)	「観光」の語源・定義、性質と特徴
第4回	「観光資源」とはなにか	「観光資源」の語源、観光における観光資源の位置づけ
第5回	観光資源概念の拡大と現状	拡大する観光資源概念を事例から理解する
第6回	自然観光資源とその現状 (1)	自然観光資源のとらえ方、国内での現状
第7回	自然観光資源とその現状 (2)	自然観光資源に関する法制度、政策など
第8回	ケーススタディ (1)	講義内容に関する事例を映像資料等から学ぶ
第9回	文化観光資源と政策 (1)	文化観光資源のとらえ方とその政策が進展した背景を学ぶ
第10回	文化観光資源と政策 (2)	同上
第11回	観光資源の保全と活用 (1)	
第12回	観光資源の保全と活用 (2)	
第13回	観光地の発展と観光資源の関係	観光地の発展を資源活用の観点から考える
第14回	ケーススタディ (2)	講義内容に関する事例を映像資料等から学ぶ
第15回	講義のまとめ	

教科書・参考文献

教科書 基本的に、配布するレジユメを教科書に充てる。受講生が多い場合は、指定サイトからテキストを各自ダウンロードし、プリントアウトのうえ、持参する方式とする。

参考書 足羽洋保『観光資源論』中央経済社、1997年
北川宗忠『観光資源と環境』サンライズ出版、2001年

授業外での学習

講義時間中に、講義時間外での学習について指示を行う。主には配布資料の読み込みなどである。

評価方法

講義内課題もしくはレポート (30%)、期末テストもしくは期末レポート (70%) を評価対象とする。

履修上の注意

第一回の講義ガイダンスでは、講義内容や評価について重要な説明をしているので、必ず出席すること。

科目名 観光地理学
Title Tourism Geography
科目区分 専門導入B

担当教員
教授 西野 寿章 (ニシノ トシアキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

真のレクリエーションの場としての温泉地を考える。レクリエーションとは、元気回復と訳すこともできる。日本の温泉の歴史をみると、医学が未発達な近世においては病気治療の場としての温泉、すなわち湯治が中心であった。やがて明治以降、資本主義が発達すると避暑や静養が目的となり、医学の発達によって、次第に湯治は目的として後退していった。1960～80年代における温泉地利用は、家族旅行、グループ旅行などもあったものの会社等における慰安旅行や親睦旅行なども大きな割合を占めていたが、バブル経済の生成と崩壊を経て、社会情勢が変化して、団体旅行は次第に減少している。温泉地はこのような時代に翻弄されながら発達してきた。低成長、少子化、高齢化の時代を迎えた温泉地は、真のレクリエーションの場となっているのであろうか。歴史、現状から考えてみたい。

達成目標

日本の温泉の歴史、群馬県草津温泉の歴史と現状を学ぶ中から、真のレクリエーションの場とは何かを考え、考察し、その意味を地域政策の視点から考えることに目標を置く。

スケジュール

第1回	ブローグ	観光振興をめぐる諸問題を解説する
第2回	日本の温泉の現状	温泉 日本の温泉を地域分布、宿数、客数、消費額等から考察する
第3回	日本の温泉発達史(1)	古代・中世における日本の温泉の性格を解説する
第4回	日本の温泉発達史(2)	近世における日本の温泉の性格を解説する
第5回	日本の温泉発達史(3)	明治～第二次世界大戦の間の日本の温泉の性格を解説する
第6回	日本の温泉発達史(4)	第二次世界大戦後の日本の温泉の性格を解説する
第7回	草津温泉発達史(1)	明治以前の草津温泉について解説する
第8回	草津温泉発達史(2)	明治期における草津温泉の動向を解説する
第9回	草津温泉発達史(3)	大正期以降の交通網整備、リゾート地化について解説する
第10回	草津温泉発達史(4)	明治・大正期の湯治と温泉集落の発達について解説する
第11回	草津温泉発達史(5)	第二次世界大戦後～1980年間の発達史を解説する
第12回	草津温泉発達史(6)	リゾート法下における地域開発の功罪を考察する
第13回	草津温泉発達史(7)	21世紀初頭のブランド化への取り組みを解説する
第14回	観光による地域振興史	20世紀後半の日本における観光による地域振興の歴史をまとめる
第15回	真のレクリエーションの場としての温泉考	以上より、真のレクリエーションの場とは何かを考察する

教科書・参考文献

教科書 使用しない。

参考書 授業中に紹介する。

授業外での学習

シラバスの内容をふまえ、関連文献、論文をよく読んで講義に出席するようにされたい。

評価方法

平常点(30点)、試験点(70点)で評価する。平常点は、毎回、小レポートを課し、その評価を平常点とする。

履修上の注意

出席調査は、毎回行う。授業回数の2/3以上出席しないと試験を受けることはできない。

科目名 観光学概論
Title Introduction to Tourism
科目区分 専門導入B

担当教員
非常勤講師 渋谷 和樹 (シブヤ カズキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

現代日本において、観光は基幹産業として注目を集める経済的な現象である。加えて、観光は私たちの社会や生活、文化などともかかわりを持つ多面的な現象でもある。したがって、観光現象を学問対象とする観光学でも、観光に対して経済的、経営的、社会的、文化的、心理的など多様なアプローチされてきた。「観光者と観光対象をつなぐもの(観光媒介)」に整理したうえで、それぞれの基礎的知識を習得する。それを通して、学問対象としての観光が有する多面的な側面と、多様なアプローチ方法を理解することで、受講生自身が観光に対して多彩な興味関心、疑問を抱き、それらを論理的に説明することができるようになることを目指す。

達成目標

1. 観光主体、観光客体、観光媒介という観光の基本的な構造を理解し、それぞれの基礎的知識を説明することができる。
2. 授業を通して抱いた観光に対する興味関心や疑問に対して、基礎的な知識を応用して分析・解釈することができる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション - 観光・観光学とは
- 第2回 観光史(1) - 外国における観光の歴史
- 第3回 観光史(2) - 日本における観光の歴史
- 第4回 観光の現在 - 多様化する観光
- 第5回 観光行動(1) - 観光者心理の特徴
- 第6回 観光行動(2) - 観光回遊行動の特性
- 第7回 観光対象(1) - 観光の対象とその分類
- 第8回 観光対象(2) - 自然資源の保護と活用
- 第9回 観光対象(3) - 文化の創造と真正性
- 第10回 観光と開発 - 観光地の栄枯盛衰と開発のあり方
- 第11回 観光と産業(1) - ホスピタリティ産業と観光経営
- 第12回 観光と産業(2) - 交通産業の役割と課題
- 第13回 観光と情報(1) - 情報媒体とプロモーション
- 第14回 観光と情報(2) - 情報による観光地の創造
- 第15回 まとめと振り返り

教科書・参考文献

教科書 前田勇編『新現代観光総論 第3版』学文社、2019年

参考書 岡本伸之編『観光学入門』有斐閣アルマ、2001年
大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版、2014年

授業外での学習

日常的に観光に関するニュースやメディア情報に関心を向けてください。
授業で扱った観光学の基礎的知識や議論を、自らの旅行経験やニュースに当てはめて考えることで、机上で学んだ理論の理解を深めるようにしてください。

評価方法

各授業で課すコメントシート・小レポート(60%)、期末レポート(40%)で評価する。

履修上の注意

講義の進め方、受講のルールを第1回授業で説明するため、受講希望者は必ず出席すること。